

# KY活動の実行とは

「KY活動」とは、K=危険 Y=予知「危険予知活動」という意味です。主に、作業開始前に行うもので、その日の作業内容や現場の環境などからあらゆる危険の可能性を探り、それらの危険を練ることで、事故や怪我を回避するための大切な活動です。

実際本格的に行われているのかどうか…の問について本音を話し合い実行へ移すために、月1の安全管理打ち合わせに起こり得る危険要因を洗い出し、話し合いをしていく。現場の進捗状況や、次の現場の確認、現場の状況等を話し合う。実際現場従事者が口を揃えて言うことは1つ。自然を相手に仕事をしている以上、何が起こるか予測不可能。起こった時に瞬時に考え行動することが大事。自分の命は自分で守る。仲間の命は現場の皆で守る。事故の大きさにもよるが、連絡より先ずは処置が先であり、その後連絡できる状況を見計い、救急車、現場担当責任者、現場監督責任者、事務所、事故当事者家族の順番で連絡する。命に係わる事故ではなければ、現場担当責任者に連絡を直ぐ行う。現場で働く人員が安全に働くためには、企業と森林管理者、共に協力し、支え合う仲間とのコミュニケーションと信頼関係が1番の解決方法ではないかと思う。

# 依田林業新聞

# 依田林業でのKY活動

発行所

(有) 依田林業  
塩山事務所

### ●新人教育

現場での危険を先ず説明する。  
危険だと予測される場所へは行かせない。  
マメに作業の様子を観察する。  
新人から声を掛けやすい環境を作り、コミュニケーションを取っていく。

### ●コミュニケーション

現場と事務所との連携を徹底させる。  
現場ファーストで意見を聞き、話し合う。



### ●道具や便利グッズ

新しい便利グッズ情報を提供する。  
配布できる物は提供し、注意を促す。

### ●蜂対策

アナフィラキシーショックを起こす人員には防護服の着用をさせる。  
全員に防護ネット、厚めの手袋、エピペンを持参させ、応急処置対策をさせる。  
ハチの巣がある場所へは作業させない。



互いの足りない部分を補い、辛いことがあった時に、一番の理解者になり、支え合うことで必要なのだ

人と付き合うのには理由がある…

## 前向きになれる一言

## 雨の日の林業

雨の日の作業で注意する点

● 視界が悪くなる

山の中で陽が射さないと、思いのほか真つ暗。フェイスマスクや保護メガネにも水滴が付くと、視界が悪くなり危険に。

● 足元が悪くなる

雨によって地面が崩れやすく、岩も濡れると滑りやすいです。チェーンソーや刈払いなどの刃物が動いている状態で足を滑らすと大きな事故に繋がります。

● 集中力の維持

雨の日は、普段の作業着に雨具を着て作業をします。長時間雨の中で作業をしていると、雨具を着ているインナーは湿気や汗によっても濡れるので、身体が冷えます。

晴れの時と作業状況が異なり視界や足元が悪い中、雨具を装着し、普段より慎重に作業を行うので、常に集中力をキープしておくことが大切です。

自然の中での厳しい環境下作業のため、雨の状況判断が一番大事になっていきます。